

---

## これまでの友愛訪問にひと工夫を加え、支え合い活動の柱に

～在宅福祉を支える友愛活動セミナーが開催されました～

---

去る1月14日（水）から2日間にわたり、東京都千代田区の全国社会福祉協議会（新霞が関ビル）において「在宅福祉を支える友愛活動セミナー」が開催され、友愛活動の実践者ら122名が参加しました（徳島県からは2名参加）。



1日目、はじめに厚生労働省による行政報告があり、要介護率が高くなる後期高齢者が増加することが予測され、介護や生活支援を必要とする方が増加する。自立している方の中にも現在NPOなどの生活支援サービスを受けている方もおられ、今後地域支援事業（※）を展開する中で、どのように地域で支えていくかが課題であり、老人クラブもその担い手として協力をお願いしたいとされました。

続いて、全老連小野事務局長による基調報告では、本セミナーのねらいとあわせて、地域支援事業において、組織化されている老人クラブは大きな力になると考えている。通いの場や生活支援といった分野は、老人クラブがこれまで行ってきた活動であり、そうした活動を基盤に地域のニーズ（要望）に応じて、老人クラブができるものを作って欲しいとされました。



その後、グループに分かれてのグループ協議に移り、友愛訪問活動の取り組み状況などについて情報交換が行われ、1日目を終了しました。

2日目、兵庫県宍粟市（しろうし）社会福祉協議会の山本事務局長による講演が行われ、宍粟市社協が行う高齢者支援の活動について、元気高齢者を活用（調理・輸送）した配食サービスの取り組みや移送サービス、介護予防を目的とした「お達者クラブ」、

地域住民有志による福祉委員を中心とした見守り・サロン活動，歳末時期の福祉サービス（灯油，おせち，カレンダー配付）などについて説明があり，老人クラブには生活支援の担い手として，これまでの友愛訪問にひと工夫を加えながら，困りごとのつなぎ役をお願いしたいとされました。

最後に，全老連齊藤事務局長によるまとめが行われ，地域支援事業において，各市町村ではいざ動こうとしたとき動いてくれる人がどれだけいるかが最大の課題であり，悩みとなっているが，最大の戦力として期待されているのが元気高齢者である。地域包括ケアシステムについては，住み慣れたところで暮らし続けるためにどのようにお互いにサポートしていくかということになるが，制度で賄えない部分をどのように地域住民が知恵を出し合って，補っていくかが課題である。ただし，その理念やイメージが高齢者に十分認識されていないのが現状であり，行政に対してはPRに努めるよう要望したいとされました。

#### （※）地域支援事業

高齢者が要介護（要支援）状態になることを予防するとともに，要介護状態となった場合でも，可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援することを目的として各市町村が実施する事業です。介護予防の事業や配食・見守り等の生活支援サービスなど。